

番号	3	平成28年度公共事業再評価調書				担当課名	道路整備課
事業名	道路改築事業			事業主体	静岡県		
箇所名	一般国道150号 ^{した} 志太 ^{はいなん} ～ ^{ほいなん} 榛南バイパス			関係市町村	焼津市		
事業採択年度	平成 16 年度		計画期間	平成16年度 ～ 平成30年度			
用地着手年度	平成 17 年度		工事着手年度	平成 16 年度			
再評価理由※	再評価実施(H23)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～H26年度	H27年度	H28年度見込	計	
	7,000		6,240	59	100	6,399	
事業概要	<p>(1)事業目的 一般国道150号は静岡県中西部沿岸地域の産業と生活を支える重要な路線である。しかし、社会経済の発展や交流の活性化に伴い交通量が大幅に増加し、交通混雑、沿道環境の悪化、サービスの低下等の課題が生じていることから、安全で快適な道路環境の確保を目的とし、志太～榛南Ⅱバイパスとともに整備を行うものである。</p> <p>(2)事業内容 計画概要：延長3,300m(道路工3,220m 橋梁工80m) 車線幅13.0m(全幅25.0m) 4車線バイパス(両側歩道)</p>						
【視点1】 事業の 必要性	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 大井川焼津藤枝スマートインターチェンジが平成28年3月12日に供用が開始された。現道の国道150号における主要渋滞ポイントの富士見橋での交通量は増加している。 【H17センサス】17,033台/12h、【H22センサス】22,099台/12h</p> <p>(2)事業の投資効果 現時点(H28)の分析結果：B/C=1.69 ・総便益(B)133.39億円 走行時間短縮便益 107.70億円、走行経費減少便益 19.22億円 交通事故減少便益 6.47億円 ・総費用(C)79.16億円 建設投資額 77.72億円、維持管理費 1.44億円、用地残存価値 -2.23億円 バイパス沿線には、多数の工業団地が立地している。バイパス整備により、焼津インターチェンジや、大井川焼津藤枝スマートインターチェンジへのアクセスが向上し、企業活動を支えている当該路線の重要性はますます増している。</p> <p>(3)事業の進捗状況 【事業費】進捗率91.4%(平成28年度末見込み：6,399百万円/7,000百万円) 【事業量】57.6% 1,900m/3,300m 【用地面積】100.0% 14,850m²/14,850m² 【工事費】進捗率89.1%(平成28年度末見込み：4,705百万円/5,282百万円)</p> <p>評価 継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない</p>						
【視点2】 今後の 事業の進捗 の見込み	<p>今年度末において、用地取得率100%の見込みである。 地元や各団体からの意見においても、現道の渋滞緩和及びバイパス整備に伴う物流の効率向上等に対する期待が大きく、平成30年度中の完成を目指し今年度も工事の進捗を図っていく。</p> <p>評価 継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない</p>						
【視点3】 新たなコスト 縮減・代替案 立案等 の可能性	<p>新技術・新工法の活用、建設発生土の他工事流用や、構造物のプレキャスト化等によりコスト縮減を図っていく。</p>						
対応方針 (案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を(継続・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 本路線は、一般国道150号現道の交通課題(慢性的な渋滞による環境悪化と道路サービスの低下)を解決するための重要な路線である。 本事業は、事業も順調に進捗していることから、事業を継続し早期完成を図る。</p>						

一般国道 150 号 志太～榛南バイパス

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成 20 年 11 月)

総括表

I) 総便益 B	133.39 億円
便益=[評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] - [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 事業費 C	79.16 億円
総費用=[当該計画道路の建設投資額]+[当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.69

I) 総便益の算出

①各種費用の H42 の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	1498.72	406.86	73.58	1979.16
整備した場合 B	1492.94	405.86	73.24	1972.04

便益 A-B	5.78 時間短縮便益	1.00 経費減少便益	0.34 事故減少便益	7.12
-----------	----------------	----------------	----------------	------

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

②総便益の算出

供用後 50 年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	将来の便益 H31～H80
総便益	133.39 …B

II) 総費用

[総費用]=[建設投資額]+[維持管理費]-[用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費 用(万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
67.15	77.72	726.0	1.44	2.23	79.16 …C

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後 50 年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。



交通の円滑化



宗高周辺部(2016/1/7調査時)

産業活性化への寄与



【企業立地】
国道150号(志太～榛南)バイパスの整備等を睨み、多数の工業団地等が立地

- ①焼津水産流通加工団地 (H13.1～H20.6)
- ②水産パークヤイズ (H13.1～H20.6)
- ③焼津鉄鋼団地 (S60.3～H27.3)
- ④焼津和田産業団地 (H12.9～H20.7)
- ⑤焼津水産加工団地 (S49.6～H20.9)
- ⑥大井川高新田第1工業団地 (S60.5～H9.8)
- ⑦大井川高新田第2工業団地 (S61.3～H1.4)
- ⑧大井町臨港東地区工業団地 (H4.5～H8.5)
- ⑨オーエフジー (S44.5～H21.7)

